

⑬ 太宰治文学碑



津軽の生んだ小説家・太宰治（本名＝津島修治）は、弘前大学の前身校の一つである旧制弘前高等学校の卒業生で、平成 21 年（2009）、太宰生誕 100 年の節目の年に、太宰と弘前大学との縁を恒久的に伝えるため、弘前大学の 60 周年記念事業の一つとして「太宰治文学碑」が建立されました。碑面には、昭和 19 年（1944）の作品『津軽』の序章の一節が刻まれています。

「私には、また別の専門科目があるのだ。世人は假りにその科目を愛と読んである。人の心と人の心の觸れ合いを研究する科目である。私はこのたびの旅行に於いて、主としてこの一科目を追求した。」

この碑文は、津島園子さん（太宰治の長女）の意向を最大限に尊重し選定されました。人生へ寄せる太宰の真摯な思いが凝縮された言葉の連なりで、津島さんご自身が最も好きだという一節が刻まれています。

また、文学碑の隣には、太宰の旧制弘高時代の写真があります。この写真が弘前大学附属図書館から発見され、全国的に話題となりました。

〔引用文献〕

1. 長谷川成一（2009）. 弘前大学広報誌ひろだい, 13, 13-14.
2. 弘前大学「学園だより」編集委員会（編）（2015）. 学園だよりキャンパスツアー, 185,